

其點は常に推移して居る。かくて人々はその精神生活の目的を達するのである。

注意と意志

◎注意は單に知的の事柄であるけれどもこれは意志の初歩ともいふことが出来る。元良博士が練心器といふものをつくられて、これによつて兒童の注意力を養ひ以てその人格全體の統一をはからうとせらるゝ如きもその意味にあるのである。

不注意

◎不注意といふことは注意しないといふ消極的の状態ではない。注意しないといふのならばそこに注意をやめる注意の狀態があるものと見なければならぬ。不注意といふのは即ち動もすれば注意が他の刺戟のために移りやすいといふ頗る不安定の狀態にあるの意である。低能兒などはこの意味の不注意

専心配慮

である。學生でも頭腦の悪い人は此不注意が多い。かゝる人は注意を一ヶ所に集中すること、またその焦點を規則正しく推移することを練習したがよい。眼の据ゑ所、手の置所を一定し、言葉の濫發を制し、森嚴敬虔の心を養へば注意力は漸次發達して來る。

(七〇) 専心配慮と頭腦

◎前項に注意の御話をしたが注意の方向に集中の方面と推移の方面と二つある。その一方に集中する方面が即ち専心で推移の方面が即ち配慮である。併しこの配慮の方は推移と云つても簡單に移つて行くばかりでなく、一定の系統を逐つて推

移し、結局の全體を透觀し總括するといふ様な複雑な働きをやるのである。

小使と校長

●頭腦のよいと云はれる人はこの専心配慮兩方面を備へて居る。各々一方だけでは不完全の人である。小使と校長との比較に於て小使は専心の働きを以て校長から命ぜられたる仕事のみをやつて居ればよい。校長は之れに反し校内のあらゆることに關し一定の秩序ある系統をつくつてそれを配慮して行かなければならないから非常に面倒である。小使よも校長の方が月給の多いのはこれが爲めである。

●よい役人とならうとしたり又は何か甘い仕事にありつかんとする人は努力してこの専心と配慮との兩方面の力を養ふべ

衝動と思慮

きである。しかせざれば中々人がつかはぬ。ドチラか一ツ缺けて居ても甚だ困る。

(七一) 思慮及判断と頭腦

●衝動が來ると直に之れに應じて事をやつてしまふ人があ
る。やつてから跡で後悔をする。人殺しでも喧嘩でも其他の
罪害に於てもこの衝動に直應することが人の目的を達するの
を妨げて居る。これ即ち思慮が足りなかつたのである。

●思慮といふけれども、結局こは俗名である。學術的にいへば判断作用のことである。幾つかの命題をならべて判断をするので、そのやり方でもつて頭腦のよしあしをまた他から判

判断

断される様なことにもなる。

分析と綜合
なり
判断は力

◎分析綜合の判断作用などは之を自覺的に行ふ様になるのは餘程頭腦が進まなくては駄目である。論理學、數學、さては文法の學などはこれらの判断的頭腦がないと全で分らぬ。判断は一種の力である。

◎判断は二種ある。即ち只の判断と批評判断である。只の判断は即ち命題又はその系を提出するだけであるが批評判断の方はその價值を判断するのである。『彼は盜賊である』といへば彼の盜賊なる眞理を提命しただけであるが、更に進んで彼の盜なることを善とか惡とか又は美とか醜とかいふ様にその價值を批判するのが價值の判断である。

聯想

類似との
想との
接

◎科學、理學に於てはたいの判断が最も流行するが、精神學、道德の學、美術などになると價值の判断が多く行はれる。頭腦の非常によいと云はれるものに往々この價值判断を度外視するの弊害がある。

(七二) 聯想と頭腦

◎思想の聯合作用である。此聯想なるものは一種の系の如きものにて結び附けられたる種々の觀念、概念、等が或方向を基礎として意識面に滑り出る。聯想の方向は人によつて異なり、また場合によりて差違があるけれども大抵一定の規則に従つて居る。即ち類似并に接近の聯想である。

部分の聯想

◎馬を想へば牛を聯想する。椅子を想へばテーブルを考へる。大抵の聯想はこの類似か接近かの二つであるが、併し一部分を考へて全體を聯想し、全體を考へて一部を聯想する等の働きもある。

作文と聯想

◎この聯想を豊富にして置くといふことは頭腦の進修にとつては缺く可らざることである。之を練習して一種の知的の習慣にして置けば判断の際甚だ役に立つ。作文の出来ない人などは特に注意してこの力を養ふべきである。

(七三) 好奇心と頭腦

本能と好奇心

◎好奇心は元來本能的のものである。動物などはこの性がある

性欲と好奇心

るために捕へらるゝ様なことが多い。人間にも之れが中々多い。恐い物見たさ、物見高い、人だかり等の理由は皆この好奇心があるためである。

◎前にも一寸出したが森鷗外氏のグイタ、セキスアリスに出て来る哲學者、金井湛は性慾のために性慾を満足さしたといふよりもむしろ好奇心につられて性慾を充したといふ方が適當であらう。實際この性慾といふものは、始めは徹頭徹尾好奇心によるのである。この好奇心を満足させるためには青春の血を湧かせながら終夜でも飛び廻る様な時代もある。

◎奇を逐うて追求する性質は頭腦の發展によい影響を與へる。他日の科學的研究態度の基因をなす様なこともある。

追求性

秘密心

ベルヌ氏の
小説『冒険談』

併し、ある一つの事項を探求するために他のすべての本務を棒に振る様な考を出すのは品性の陶冶に害がある。こゝらにはよく周囲の制限を考へて規する様にした方がよいのである。

◎秘密心はよく青年、少年にある性質で自分の事を秘密に保たんとし、又は秘密的の設備を喜ぶ心である。小説などを讀んでそれにかふれる場合もある。探偵小説などが大にモテルといふのは、人にこの秘密心あるにるので好奇心の變態である。ジュールベルヌ氏の小説、押川春浪氏の冒険談の如きはこれである。秘密室などいふ室を夢想し或は又秘密會議とか秘密團體の密計密謀といふ様なことなどは少年の心を奪ふ様な面白いことで、かゝる本を讀んだ少年などは自然に

梁山泊的
思想

知覺表象
と想像

之を真似る。デズレリーの書いた昆太利布令民といふ小説の中にある青年徒黨などはこれである。水滸傳の梁山泊も人の秘密心の髓に觸れて居る。要するにあまりこの心を多く養ひすぎると害がある。自分の計畫などを無暗に秘密にする様になるものである。

(七四) 想像と頭腦

◎普通の知覺表象は感覺機關にあらはれた物體の意識そのものをいふのである。想像となると表象をまるで別の構成として再生せしめるのである。感覺的の興奮を表象的に再現せしめる點は知覺表象の場合とよく似て居るけれども、それが全

想像の二種

想像の豊かなる頭腦

學生の想像

く別の構成を有するといふ事に注意すべきである。

●想像に二種ある。即ち再^{△△△△△}的想像と創造的想像とがこれである。前者は曾て意識の上に乗つたことのある知覺表象が再生したものである。また後者は嘗て意識に乗つたことのない心象が出て来る。例へば龍の如きもので少しも經驗はないが蛇の様な身と、獸の様な角、魚の様な鱗、蜥蜴の様な足などを組合して創造したのである。

●想像の豊富な頭腦は一種特別の權利をもつて居る。文學者、美術家などは此件に於て優秀の性をもつて居る。

●學生の場合に於て、若し二人が同じ答案を書くとしても想像の豊富なものはウマイ例證などをつくり出して擧げるから

科學と假説

精神の型

時に審査員を喜ばせることなどがある。想像に富まぬもの
思想は貧弱であつて教師からつまらぬ人物と稱せられる。科
學者と雖も假説などをつくつて偉大の發見をなすにはこの想
像の力を大に働かせなくてはならぬ。證明の方が假説よりは
よほど出来る様なこともある。

(七五) 型と頭腦

●精神には型(カタ)といふものがある。心象などを浮べる
のに、之を視覺に訴へるものもあるし、又は聽覺に訴へるの
もある。また稀には嗅覺、味覺、などの心象を浮べる習慣の
ある人がある。それらの傾向によつて之を視覺型、聽覺型等

七五 型と頭腦

視覚型の
人

の型といふ言葉を使ふ。

聴覚型の
人

視覚型の人になると物を暗記するのに種々の圖形を考へてその各部に自分の暗記するものをあてはめることなどをやる。格天井のコマの一つを一つの時代にあてはめて歴史を學んだ人もある。演説などをやるときに自分のやらうとする項目を自分の家の附近の地形にあてはめて置いて實際之を演ずるときなどにはそれを思ひ浮べながらやつて行く。それが聴覚型の人となると名文の文句等はそのまま記憶してしまふ。

他日思ひ出すときでもその文句をそのまま耳から思ひ出す。

運動型の
人

◎運動型といふものもある。運動感覺によつて一定の心象を成表する様なのである。種々なる事項を手の運動や足の運動に

氣分の心
理

結びつけて置き、その事を想ふときには同じ運動によつて之をたぐり出すことが出来るといふ様なのである。

◎頭腦のよい人は視覚型の人に多い。併し實は視聽兩方の型を兼ね備へ得れば甚だ結構であつて、研學上の優者となり得るのである。

(七六) 氣分と頭腦

◎氣分といふものは、心理學上、中々六つかしいものである。一般感情とでもいふ様なものである。兎に角久しい間、ある特種の情緒を生ぜんとする一定の傾向をいふので、動もすれば怒らうとしたり、或は悲しくなりたがつたり、其他萬事に

氣分の流

つけて快活のそぶりをしたり、する様な特別の傾向である。いかなる場合でも氣分の流れは常に流れて居る。

◎氣分の基礎は有機的である。消化不良、女子の生理的特務の如きものは氣分を左右する最も著大なる理由である。

◎氣分と氣持とは別である。氣持は全くの有機感覺である。嘔吐を催さんとするときなどはその氣持を感じる。氣分の方は全く感情系統に屬するものである。氣分の中に稀には有機的原因でなく、ある情緒の影響が著しく残つて、それが一般の流れに同化した様な場合がある。

◎頭腦に對して氣分は如何なる働きをなすであらうか。概して智的作用には大した關係はないが氣分の快に傾く事、不快

氣分と頭

氣分と氣質

に傾くこといづれも過ぎては注意に害がある。丁度その中間位の所が冷徹なる頭腦を働かすにはよからうと思はれる。氣分による緊張、興奮は頭腦に害あつて益がない。最も平靜なるを以てよしとしてある。青年學生などはその氣分の陰顯の速かなること驚くべきものがある。壯年には之が大に定まつて来る。

(七七) 氣質と頭腦

◎ある人にとつて氣分が永久的附性となつたのが氣質である。氣質を分つて四つとする即ち。多血質、胆汁質、神經質、粘液質がそれである。その四質の特色をあげるに、生理的、

七七 氣質と頭腦

智的、情的、意的の諸方面から観られるが、その最も特色づける、所は情緒に感ずる所である。今これより各質の特徴をあげよう。

多血質

◎多血質の人は生理的にいへば循環系統が発達して居る。顔色は紅美白秀、動作は敏速、好奇心に富み、快活にして興奮しやすく舉止少しく輕佻に流れやすい。

胆汁質

◎胆汁質の人は肝臓が発達して居る。體格は極めて丈夫で顔色も頗るよく舉動は快なれども輕佻ならず、敢爲豪放の氣象を發揮し、意志の堅實なること驚くべきものがある。

神經質

◎神經質は一に憂鬱質ともいふ。神経系統が発達して居る。體格はあまりよくない。顔色は蒼白、舉止は沈着、併し、す

粘液質

べての事を悲觀し、また判断に偏頗がある。克己の念には甚だ富んで居るが對人的意思は胆汁質の様にはつよくない。

◎粘液質は頗る悪くいはれるが、併し決してそんなに悪い性質ではないのである。身體の上では消化器の系統が発達して居る。多少脂肪的に肥滿して居て表出舉止は遲鈍である。感情冷淡、進取の氣質なく、萬事に敏應しない。併し一旦定めたことは仲々動かさぬといふ特徴がある。

◎以上四質の人々は頭腦に於て如何なる長短があるかといふと多血質の人は萬事につけて興味が多いから、事をうまく處理することが出来る。併しその缺點としてはあまり早く移り變りすぎて成功するまで見て居ない。だから學問でも一寸は

各氣質の
頭腦に於
ける特色

小器用にやるが大成功に到るまで深沈なる心を持つて待つて居ることが出来ぬ。膽汁質の人には人物はよいが頭腦は悪いと評せらるゝ人が多い。學問などに對する興味はうすくまた興奮し易いから冷靜の研究を缺く様になる。神經質の人は何物にも興味多く研究の態度も深刻だから、哲學や心理學などの學問などには大成することもある。併し、多血質の人の様に頭腦がよいと評せらるゝには之はあまりに深刻であつて一つの事項に引かゝり過ぎていけない。反應も遅いから試験や何かには失敗することもある。粘液質の人々は興味が馬鹿にうすいから、教師などからは糞の様にいはれる。併し一旦やみ出したらろくろくと牛の様に押強くやり通すから大に成功

することもある。

●以上四質は一人の人に種々の割合で組合せとなつて混入して居る。一人で一質のみの方は殆んどない。併し組合せの中でも大抵ある一質がきは立つて卓表して居るから之を以て自己の氣質ときめてよい。どの質に屬しても決して得意又は落膽に偏せず、その弊を去り利につきて、自ら修養するがよい。

(七八) 天才奇才の頭腦

◎天才といつても種々あるが主として智性が天性的に異數の發展を遂げて居る者をいふ様である。聯想などの豊富で、その糸を引くことの速かなることは實に驚くばかりである。想

像特に創造的想像の如きは頗る奇抜なのがある。其他記憶に於ける、判断に於ける、又、道德的、及び美的の反應に於ける其態度の非常に敏確優秀なる天才がある。その頭腦の力の偉大なることも天性によること甚だ多い。

◎奇才といふのは普通天才と區別されて居る。天性でなくて練習によつて驚くべき才能を發揮するのが奇才である。藝人に於ける名人の如きはこの奇才が多い。暗算或は速算の名人といふ様なものがよく世に出づる様であるが、あの中にも天才と奇才とが交つて居る。

◎蜀山人太田南畝の狂歌の如きは實に異常の才である。これ等は天才か奇才かその判断に苦しむのである。併し余の考へ

奇才

蜀山人

では或は奇才かも知れぬと思ふ。ある時ある所で人知れぬ苦心をして、即吟自在の妙法を發見したのではなからうかと思ふ。

◎頭腦問題に於ても天才と奇才とがある。奇才は或時或場所で慘憺たる苦心を経て、すべての自己の活動の基礎となる様な形式を發見したのである。併しそれには實に大苦心を要することを呉々も忘れてはならぬ。

(七九) 責任と頭腦

◎頭腦の活動と責任の有無とは非常の關係があるものだ。優等生の如きは元來頭腦のよいものもあるが、中には頗る如何は

七九 責任と頭腦

優等生と頭腦

しいのもあるので學問の出来ないのみならず、頭腦のさつぱり動かないのも稀にある。併しそんな人でも何かの工合で僥倖にも優等の地位を占めると其次からは割合に順番が下らない。そのわけはいくらか責任を感じて非常に努力することが加はつて居る。電車の車掌などがあんな人込みの中でよく目が廻らずにあれだけの實務を處理出来ると感ずるけれどもあれも責任によるのである。責任は實に頭腦をして多大の活躍をなさしむるものである。

●俳優が舞臺で大に演つて居るときなどは萬事萬端の舉動が非常にうまく行く。講談師の高座でやる辯舌には少しの淀みがない。これらの事はつまり彼等の熟練にもよるであらうが

責任者は
觀念の聯
絡に盡力
す

よい頭腦
とは何ぞ

本職といふので責任を感じて居るから、注意力のありつたけを費して居るし、また平日練習して觀念相互の聯絡といふ點に畢生の力を出しつくすのである。この聯絡がうまくとれないといふと頗る拙劣なるのである。

●學生でも試験となるとよく頭が働らくといふのも、この責任を感じて居るので、思想の聯絡が平日より敏活に行くのである。

(八〇) 所謂良い頭腦

●よく人の事をよい頭腦だといつて賞め、又は悪い頭腦とけなす、併しその所謂よい頭腦には種々の意義があつて、多く

六〇 所謂良い頭腦

括りの頭腦

の人はそれを種々混同しまた組合せて使つて居る。

●一類つゝの件を括つて見る様な頭腦は縮約力を有するので非常にエネルギーの經濟をはかり得るのである。之を式にあらはして見れば

$$ax + by + cz$$

と云ふ様なものをxで括つて

$$x(a + b + c)$$

とする様な類である。これが決して數學に於てのみの式ではない。人事でも學業でもかゝる風の考へ方をするとき非常に利益がある。

◎また代用の頭腦も甚だ必要である。方程式のxの中へ極

代用の頭腦

めて複雑なるものを代用さしても、xで計算をして行けば甚だ簡單にすむ。數學を稽古せずとも頭腦のよい人はチャンスと之をやつて居る。

分類

◎分類の頭腦は多くの人に缺けて居る。學者などが之を萬事に應用すると、迂なりとして笑はれる。分類も何もなくゴチャゴチャやにやるのは今の日本人の弊風である。併し、これは將來たしかに改まるに相違ない。

◎分析の頭腦と綜合の頭腦は互に相俟つて誰人と雖も之を修養せねばならぬ。物の最も單純なる形を探り出したものが屬する段階を正別し、その最も大なる範圍に至るまで秩然と整頓する頭腦がなければ駄目だ。

分合の頭腦

入○ 所謂真い頭腦

頭腦明晰法百話

◎比較の頭腦は大抵の人が持つて居る。それが低能の女生などになると衣服をつくつても片方の袖を長くし片方を短かくするなどいふ様なことをやる。

◎全體の頭腦を通覽達觀するといふ様な頭腦はよほど成長しなければ生じない。一齋先生の語に『高きに在る者は理を見て岐れず』とある。高い山から眺むるものは一本の道が二つに岐れてもその各者の越く所を知つて居る。恰も地圖を見る様なものである。それが平面の上に在つて二つの岐れ路に出合つたら全くその去就に迷ふのである。

◎偕又茲に材料の用ゐる方に頭腦の種類がある。少ない材料を自分の形式にあてはめてうまく活用する人があるかと思ふと

また或は多くの材料の中から最も精髓となる材料をランビキに掛けて取り出す様なものもある。藏經を讀んだ法然上人と日蓮上人との差違などはそれである。法然の方は數度之を讀破し、日蓮の方は所々を讀んだ位のものではないかと思ふ。併しどちらにも名僧で藏經を活用した點は皆えらい。文献が多くなつて來ると法然上人のやうなやり方はチト困難になつて來るので現今では先づ日蓮法によらなくてはなるまいか。

(八一) 數學的並に論理的の頭腦

◎一體この數の思想の發達といふものは財産や富の勘定に必要なことから起るので、蠻人などはその必要がないから三十

五六乃至五六十込の數しか數へられないといふ話である。文明の人になると計算の必要が大に増して來るので漸次複雑なる頭腦によつて計算をするに至つた。種々の頭腦をつくつて手を省かなければせまい土地の計算でも一晝夜もかゝる。乘法なくして一々加法でやつて居るときは如何に煩雜であつたか、この意味に於て數學の知識は進む程、人のエネルギーを使はずにすむのである。それを學生などが高等の數學などが發達してますます頭腦を苦しめるもの様に思ふは愚の至りである。エジプトに於ける年々歳々のナイルの氾濫は終に幾何學の發達を促した。必要程恐ろしいものはない。

◎論理的の頭腦は練習によつて發達すること數の頭腦と同じ

數學の發
達はエネ
ルギーの
經濟

數學に欠
席するな

推理の頭
腦

歸納より
も演繹

三段論法

である。すべてこの數學とか論理とかいふものは部分を全系統に結びつけることを心掛けなければならぬ。その間の結合連鎖が一つ脱けても甚だ困るので、缺席などして中程がぬけたら、それから後はいくらやつても分るものでない。

◎推理の頭腦はよく養つて置くべきである。一體頭腦の良否からいへば歸納的方法に得意な人よりも演繹的方法に得意な人の方が一步上である。研究法としては歸納法を取つてもよいが、平日頭腦の練習として演繹的方法を以て事を考へて置くのもよい。作文の上手な人などは大抵この方法に得意な人である。

◎三段論法は心得て置くべきである。

八一

數學的并に論理的の頭腦

(一) Man is mortal.

(二) Kant is a man.

(三) ∴ Kant is mortal.

といふのがそれで(一)で人は死ぬものである。と提示し、(二)でカントは人である。と限り、(三)で、故にカントは死ぬものと断じた。この形は簡單であるがこれらの變態でいくらでも複雑にすることが出来る。證明の確實を得んとせば是非これらの論法に従はねばならぬ。

◎學生の非常に注意すべきは抽象的事の分る様に頭腦を練つて貰ひたいことである。一々具體的の例をあげられなくては分らぬ様ではまことに因る。偕如何にせば抽象的事柄が

抽象的事

概念の取扱ひ

心象と頭腦

分る様になるかは問題である。それには無論種々の方法もあるであらうが、その中最も有効なるものは概念の取扱ひに慣れる様にして而して、後この概念を使つて種々の文をつくることである。之をつくと、その事に關しては後に出遇つても非常によく分る様になるものである。

◎人の心と動物の心とは偉大なる差があるが、その根本的の差は心象の多少によるので、動物には殆んど心象といふものがない。この意味に於て人の心中に無數の心象の續發するはよい徴である。只それらを上手に使つて残らずそれを合目的の事に應化させなければならぬ。目的なく徒らに續生してもいけない。一定の秩序がなければいけない。

(八二) 記憶と頭腦

記憶の要

●記憶は人格の存立には最も必要の件である。人格變換の如きものは結局記憶の脱失からして人格を崩し出すのである。痴呆の人といふのもその主なる徴として記憶の虚脱をあげて居る。記憶は頭腦の良否といふこととは本質的關係を保つのである。

●すべて記憶は大きな事件を一里塚としてたぐり出さるゝものである。若しその間に大きな事件が少しもないと記憶は甚だ貧弱となるものである。反之、大きな事件が頻々として起つて来て居る期間であると、記憶は甚だ明瞭になるものである。

記憶術

●記憶術といふものは甚だ多く世に行はれて居る。併しその

中で真に系統的の理窟のあるものは實に少ない。大抵は機械的方法である。その中でも視覚表象にうつたへるのは少しは効力がある様であるけれども、聴覚にうつたへるのはほんの一時の効しかない。『邦畿千里』を千里もある長い箒木と覺えて置くの類である。視覚にうつたへるの中で、五十音圖に何事をもあてはめるもの又は自分の附近の地形に何事でもあてはめるなどいふのはよく行はれる。或はまた弓削の道鏡を記憶するに道鏡が和氣の清麿の剛直を怒つて頭からポツポツと湯氣を出して居る所を浮べて記憶するなどは状態の視覚

現象による記憶術である。

◎記憶能力をつよくするには一面に於てまた神経系統の衛生を重んじてその把握力をつよくして置かないといけない。神経が衰弱して居るために知つて居ることを想ひ出せない様なことなどもある。

◎要するに記憶術の要件は形式と内容である。自分の案出したうまい形式に萬事をあてはめて覚える。而して觀念の把握力をつよくして内容的方面を、確實に持來す様にせねばならぬ。

(八三) 素讀と頭腦

記憶と形
容内容

漢典の素
讀法

各科の素
讀法

◎昔の漢文の素讀といふものは實に激烈なものだ。四書五經などを皆ことごとく毎日一遍づゝ讀ませられるなどといふ極端なものもあつたさうだ。小學校の教科書なども何科に關らず明治の初年頃などはこの素讀的方法を取つたものである。かくの如くにして暗誦せぬ内は教師の方で承知しない。如何なる遲鈍な生徒でも必らず暗記せられた。前項に於て小生は記憶の事を述ぶるに當つて視覺法の方が聽覺法よりは優つて居るといふことを述べた。併し、あれは實は最も形式的な地口クチの様な方法を陟ノボしたのであつて、この素讀法の如きは純粹なる聽覺的方法であるが、事情のゆるす限りは之をやつた方がよいと思ふ。素讀をやつた漢學でなければ眞の漢學ではな

作文と名
言

い。素讀をやらなければ漢學の氣を呑み込んで居ない。頗るうすつぺらとでもいふ様なものが出來て居る。また小學校の各課でも棒讀して記憶して居る人が二十年の後に之を活用して今だに利益を得て居るなどいふ例がある。諸君試みに極めて簡單のことでもよいから素讀法によつて練つて見玉へ。それだけは眞に我がものとなり、何時でも大切な場合に活用せられる。作文に用ゐる名[○]句[○]金[○]言[○]などは皆この素讀棒暗記の賜物である。

◎併し現今では學生のやることが中々多くなつて來て居るから何から何まで棒暗記をやるわけに行かぬ。そこでその中から最も重要な所を選択して之を十分に素讀する様にすべき

タネ本の
必要

である。これをやつたものとやらぬものでは非常に能力の差違を生ずるのである。

(八四) 種本の豫製

◎記憶の部に於て素讀の必要を御話をしたがその材料としては最も精撰したるものを擧げなければならぬ。何でもよいからといふことはない。英語、作文、漢文、數學、等の學科に於て皆この種本を用意して置くべきである。英語ならば井ノウエ讀本、又は齋藤のレッスンなどを始めから暗記し、漢文ならば文章軌範、史記の類をチャンと腹に納めて置く。作文に於て古人の名文を讀んで之を暗記して置くこと最も必要な

るは前にのべた。數學ならばスミスの代數、ケージの三角、菊池の幾何といふ様な類のものを基礎的のものとして一つ練つて居る。朝から晩までやつて居る。かくの如くにして居ればその學力の進歩するのみならず、萬事に對して頭腦のはたらき方が敏捷になつて來るのである。

◎余が今こゝに種本の豫製といふ題目をかゝげたのはどう云ふわけであるか。豫製は即ちあらかじめこしらへるのである。こゝにいふ種本の意味はすでに出來て居る文章軌範やスミスの大代數といふ様なものではなく自分で諸種の本を涉獵し自分の型に適する理想的の種本を豫め製作して置いてそれから十分暗記にかゝつて貰いたいといふ意味である。

こゝにいふ
種本の
意

公園で勉強

◎これなら、すでに之をつくる際に非常の努力を費して居るから之を暗記するのが非常にらくである。而してこの種本にあることを呑み込んで居て、どんどん出せば如何なる急の場合でもマゴックといふ様なことはない。

(八五) 歩行勉強と頭腦

◎よく上野公園や日比谷公園などをブラブラ散歩しながら外國語の本などを高らかに読んで行く人がある。傍らの通行人はその讀者の心の中などを見抜く眼識がないからエライ人だと思つて驚ろいて通る。併し歩きながら本を讀んだとて實はよく分るものではないのである。始めてよむ本や、不熟練

の外國書などは家に居て靜坐してよんでも中々分るものでない。況んや歩き乍ら意識の中心のよく取れない、不斷外刺の變化して行く様な場合に本を讀むのは間違つて居る。然らば歩行の場合に本をよむのは全く不可能かといふに決してさういふことではない。本の種類によつては却つて坐つてやるよりも歩き乍らやる方がよい様なこともある。如何なる本が歩行時の誦讀に適するかといふと先づ内容に於ては斷片的に獨立せる句節が集輯せられて居るもの即ち詩集、短論集、の如きものであつて、同時に最も之れに熟達して居る様な場合に限るのである。併し實はこれが書籍でなくて、一枚刷又はカードの様なものであつたならば甚だ面白いので、よく分つて

歩行勉強のよきもの

歩勉の害

居るものでさへあればそれらが最も歩行勉強に適する。高等學校の生徒諸君が上野の森などで獨逸語の單語を暗記せらるるのを見受けるがあれは中々よい。ハイカラの學生が歩き乍ら金文字入の洋書を見て行く様なのは甚だ怪しいのである。◎歩行勉強はあまりやり過ぎると神經衰弱を醸すのである。そは歩行勉強と歩行に關する外物注意との兩活動を兼ねるためである。理想的にいへば頭腦のためには歩勉をやらぬ方がよからうと思ふ。

(八六) 兵役懲役と頭腦

◎學生が學校の一定のコースをやつて居る中に徴兵に取られ

兵役と頭腦

て兵役に就く。これは頭腦を重んずる學生には學問上一種の恐慌の様に考へられて居る。兵隊に行くと頭腦が悪くなると思ふ。それは果して眞であるかどうか。

●兎に角兵役に就けば今までは生活法がちがふ。あらゆる身體的の訓練をうけて頭腦に對する刺戟は全く無くなるといつてもよい。だから今まで勉強の仕詰めと云ふ様な態度でやつて來た様な人には非常な變化であるから頭腦に於ける諸活動の内容が少なくなると同時に形式も粗になるであらう。

●併しかゝる嘆聲はよほど極端の學生のいふことで普通の人ならばそんなに多く影響するものではない。むしろ兵役に就いて生活の規律を正した方が不健全の學生學者をして健全な

兵營生活
の利

兵役中と
種本

らしむるのである。

●けれども全く學術上の事から離れてしまふのは學生學者にとつて不利益である。といつて兵舎に居て本などをよむ暇はあるまい。そこで、前項に示したる種本の必要を感じるのである。學生學者ともに兵役につく前に自己の専門の學又はそれに関係ある科目の要點又は平日自分が研究せんとする問題についての解鍵的材料などの最も整頓したる形を極めて簡單なる設備となして之を不斷懷中して居る。それを役務中暇のあるとき便所となく、寢室となく、いつでもどこでも少しでも暇のあるときは軍曹、上等兵の目をぬすんで、この精練したる金科玉條の一本について又それ等相互の關係について十

兵營中の
勉強法

分^〇に^〇研^〇究^〇を^〇遂^〇ぐ^〇べ^〇き^〇で^〇あ^〇る^〇。そ^〇れ^〇ら^〇の^〇簡^〇單^〇な^〇る^〇形^〇式^〇を^〇材^〇料^〇と^〇し^〇て、演^〇繹^〇的^〇に^〇問^〇題^〇の^〇範^〇圍^〇を^〇ひ^〇ろ^〇げ^〇て^〇も^〇よ^〇い^〇。要^〇す^〇る^〇に^〇常^〇に^〇携^〇ぶ^〇る^〇種^〇本^〇は^〇簡^〇單^〇で^〇も^〇討^〇究^〇の^〇範^〇圍^〇は^〇ひ^〇ろ^〇く^〇深^〇い^〇。脊^〇革^〇金^〇字^〇の^〇洋^〇書^〇を^〇兵^〇舎^〇へ^〇か^〇つ^〇ぎ^〇込^〇め^〇る^〇こ^〇と^〇が^〇出^〇來^〇な^〇け^〇れ^〇ば^〇學^〇問^〇は^〇お^〇し^〇ま^〇ひ^〇と思^〇ふ^〇様^〇な^〇習^〇慣^〇を^〇つ^〇け^〇ぬ^〇方^〇が^〇よ^〇い^〇。眞^〇の^〇達^〇人^〇な^〇ら^〇ば^〇種^〇本^〇す^〇ら^〇要^〇ら^〇な^〇い^〇位^〇で^〇あ^〇る^〇。心^〇の^〇中^〇に^〇種^〇本^〇が^〇チ^〇ヤ^〇ン^〇と^〇出^〇來^〇て^〇居^〇る^〇。

◎懲役のことなどをいふのは不祥であるが賂を納めて法律を犯したる代議士などが懲役に行つたとして上述の如き心掛の人ならば學問が出来るのである。高島嘉右衛門先生は入牢中易の坤本一冊を得て之を研究し終に易學の泰斗となつた。

高島香象
氏の入牢

名人と品
具

(八七) 資料と頭腦

◎名人は器具を選ばないといふ。左甚五郎などは鈍刀を用ゐて刻したといふ。(併し名人と器具との關係は實は反對の例が混交して居て之を嚴密に判ずることは出來ぬ)。兎も角名人中に器具をえらばずして仕事をした人が多いといふことは事實である。

◎思想界の名人は矢張りそれである。前に述べた様にスペンサーなどは別に當時の議論やオーソリテイの書いた様なものをことごとくに涉獵するといふ様なことはない。蓋し彼は諸地方の風土人情等に關する實際的の資料を使つて彼れの高廣な

る學説を建立した。その資料の方からいへば別に驚くことはない。

◎英學の大家粟野健次郎氏の如きはウェブスターの大字書を常に読んで居られた。氏の知識は或意味に於てそれだけといふてもよい。併し、それによつては氏は確固不拔の立派な形式を得た。

◎正則英語學校の校長齋藤秀三郎氏の如きもその學習の方法に於て、左甚五郎の類であらう。氏の研究法は歸納的方法であると小生は見て取つたが、その資料となるものは恐らく多く、價值のないものであらうと失禮ながら思つた。併しそれを使つてあれだけの系統にした氏の頭腦は實に恐ろしいもの

粟野氏の
英語學修

齋藤秀三
氏の方
法

のだ。

紙と頭腦

◎紙を使用するは文明人の特徴でもあり、また之を使用することの多寡によつて、その文明の程度を卜することが出来るものだともいふ。

◎學生の使ふ紙にも、ノートブックの様に綴じたものもあるし、作文用紙、洋野紙の如く一枚一枚になつたものがある。それらは皆複雑な分業的使用法が付き纏つて居るから之を混同すると何が何だかわけの分らぬものになつてしまふ。

◎かくの如く紙は文明の利器であつてその使用法も亦複雑で

文明と紙

學生用の
紙

紙の
使用
法

ある。之を取扱ふ方法の巧拙はその人の頭腦の良否によるのである。よく分類し、整頓し、保存し、必要に応じて、でも引き出せる様にして置かなければならぬ。紙の管理法はそれぞれ工夫せなければならぬ。

八九 筆記と頭腦

●筆記問題は學生にとつては根本問題の一つである。その設備方法の拙なるは頭腦のわるきを證するのである。筆記の字畫の正しからざるものまたその配置の宜しからぬものなどはその末梢順應の不良を證明して居る。

●ノートを取るのに教師の講義を全部言葉通り寫さんと企つ

ノートの問題

講義とノートの

要點の筆記

筆記と符號

略字

るものがあるがあれは愚である。言葉通り寫すべき所と然らざる所とを見わけて、然らざる所の方をば極めて簡單にその要點のみを書いて置けばよい。

●符號を案出して大抵のさまり文句はこれで代用さして置くもよい。また字畫を略することも行はれて居る。筆記文字といふ様なものまで出来てきた。法料のノートなどには國家といふ字が多く出るので之を口家と寫してあるの類である。

●兎に角頭腦のよい人のノートは實に感服に堪へられないものである。

九〇 教室に於ける注意

聞き洩し

因 外面的原

因 内面的原

●學問の出来ない學生の特徴の中で最も顯著なのは教室に於ける不注意の態度である。特に教師の言を聞き洩らすといふことは彼等の最も得意とすることである。

●注意の移動、即ち不安定の注意状態にあるから一寸窓の外で變な音がするとその方を見るといふ様な事をやる。その間に一寸大切なことをきゝもらす。これは低能者に多い。

●中には内面的に妄想、空想を所持して居るものがある。教室内に於て一寸それが擴がり掛けると、夏の雲の如く速かに大きくなる。所謂晝の夢といふので中々大きな系統を保つて出現して来る。これがあつては教師の言葉などは耳にはいらぬ。神經衰弱者にこれが多い。

敬

敬則心精

教師の言の價値

●また教師に對して「敬」の念を持つて居ない人が居る。それなどは教師の言を丁寧に取り扱はぬから受け洩らしが多い。品性の劣等な者に多いのである。佐藤一齋氏の言に『敬すれば則ち心精明なり。』とあるが學生に對してこれ程よい忠告は他に見つからぬ。

●學生は實に教室に於て非常の注意と努力とを以て教師の言を受け取らなくてはならぬ。教師は一言一句、大切なる要件を卸して呉れる。兎に角之を洩さぬ様虚心平氣となつて之を受け入れ、歸つてからよく研究して見るがよい。

(九一) 優等生の態度

頭腦明晰法百話

◎余は教師をして見て始めて優等生の優等となる所以を知つた。優等生の態度は教師に取つては實に有難くてたまらない。彼等は教師の苦心を諒察して居る。教師が定まれる時間の中はその豊富なる學殖をいかに縮約せんと苦心して居るかを察して教師の一言一句は非常の注意を拂ふ。頭腦などは少し位悪くてもその態度によつて優秀の成績を得るのである。

(九二) 圖書館と頭腦

◎圖書館では濫讀を避くべきである。一定の系統に従つて秩序ある讀書をやらぬと頭腦を害する。圖書館の空氣は設備さへ完全ならば大に悪いといふことはない。併し時々は自席を

立ちて戸外の空氣を吸ふがよい。

◎隣席の人に對し、また書物の出納係などに對して一切無關係の精神状態を示して居た方がよい。それらに關する事を刺戟と感ずる様では大に進學に害があるものである。

◎圖書館籠城を非常に害と感ずる必要はない。時々起ちて一定の歩行や呼吸をやりさへすれば終日籠城して居ても差支はない。籠城時代に學問が猛烈に進歩する。

(九三) 談話と頭腦

◎佐藤一齋先生の話に談話が過ぎると氣が暴れるといつて、雜談を禁じてあることは前に述べた。益軒先生も同様の事を

云つて居る。雑談の悪きことは前述の通りであるが、ここでは言語と頭腦との關係をいふのである。言語を頻りに發する人や思慮なく衝動につれて發表する人がある。これらは頭腦の悪きを示す。

◎東北の人の言葉がゴツゴツするのも頭腦の粗を示す。東北人でも頭腦のよい人は同じズウズウでも言葉が何處となくスツキリして居るのである。

◎語尾の明不明は字の畫の正否と同じく、思想の整否に大關係がある。頭腦の良否は語尾の確否で判別することが出来る。

(九四) 交際と頭腦

方言と頭腦

交際と渡り

◎交際をして人々に渡りをつけて置かぬといふ事のあるといふときに人に何か依頼するのに困る。交際は朋友に限るといふことはない。敵とでも交はつてよい。

◎よく交際を面倒がつて氣の合つた者とでなければ手紙のやり取りもせぬ人がある。これらは社會に於ける劣者となり易い。その頭腦の悪きを證明する。よく知人、關係人を達觀してそれらに交際を結び、若し未知の人で面白い人があれば人の紹介を得て之を訪問する等の仕事は一種の企畫的の頭腦を要するものである。

面倒

紹介

(九五) 會と頭腦

九四 交際と頭腦 九五 會と頭腦

頭腦明晰法百話

◎會などにあまり行くと確實なる研究的の頭腦をこはしてしまふ。時間^{△△△△}の不正確なること、談話^{△△△△}交換の方法が悠々^{△△△△}惰慢なること、その内容の非科學的なること、酒を飲み、食を喫すること^{△△△△}に於てその量と用法とをあやまらせる。姿勢も悪くなる。學生は成るべく會に出ぬを以てよしとなす。併し清き茶話會の類ならばよい。

(九六) 目的と頭腦

◎人の目的は理想に連なつて種々の段階をなし乍ら建立せられる。目的に關してあまり考へすぎると人格の統一をやぶるといふことは前に述べたが、それに就てあまり考へないのも

困る。人は一定の目的が立つて居るのでその目的を達する様な風に頭腦が進歩して行くのである。政治家になると定めて始めて政治家風の機略的頭腦が漸次内容を増し形式をつくりて行く。

◎併し目的のあまり複雑なのは頭腦の進修の基點を多くするから却つてよくない。目的は確實にして單純に建て、これに對して希望と勇氣とを以て大にやつて行けばよい。

(九七) 職業と頭腦

◎如何なる職業でもそれに特別なる頭腦の働かせ方があるので、それをよくのみこまぬと、その職に於て優秀なる成績を

あぐることが出来ぬ。

◎その頭腦の働かせ方が漸次得意となつて來るので其職業に對する興味が出てくる。車夫馬丁に至るまでその職業に對する興味はある。併し職を轉ずる癖のあるもの又は低能者にはこの頭腦の働かせ方が分らぬ。だから興味も出ない。從てそれに勤めないから金も儲からぬ。漸々氣の毒な状態になつて來るのである。學生も一種の職業であるとして見ればそれに特殊の頭腦の働かせ方がある。それは已に前述した通りであるからよく研究して見て、之れに對する興味を起させる様にすべきである。

(九八) 頭腦進歩の團體

◎一級の上席を占むる二三人は中々下席に落ちない。これは彼等が大に責任を感じて勉強をするからでもあらうが、その別の原因としては彼等の仲間同志が皆よい人であるといふ事をも擧ぐべきである。

◎己れに如かざるものを友とすること勿れ、下頭の悪い様なものと交はると自分の頭腦までがよほど退化して來る。頭腦の良否は確かに多少傳染的の傾向を帯ぶるものである。

◎頭腦のよいのを得意とするものが集まつて一つの團體をつくり、種々の科學的研究をなし、また討論や演説などをやら

うといふ様なことはその各員をしますく、頭腦を進歩させるものである。彼等互に集まつて團員以外の者の頭腦の悪さを笑ふといふ様なことも、あまり自慢にならぬ限りはその進歩をたすけることである。

(九九) 受験と頭腦

●受験に關する頭腦の問題はすでに上章に説く所に於てその原理の大部分は盡きて居る。今茲には其準備法について最も大切な原理を一つ御話をしよう。よくヘビーがきくといふことをいふ。このヘビーといふ事は試験前などに一度にドツと澤山な分量をつめ込まうとするのであるが、それに方法が要

るので、一度も読んでない様なノートを急いで読み出してもだめである。それでは徒に苦心混亂するのみである。ノートは平日皆読んであつてアンダーラインを引いてあるとか、欄外に朱でそのヘッドインクスをやつてあるとかいふ様な場合にその要點をすーつと一瞥して行く所に頗る敏速な能力がはたらくのでこれがヘビーである。

●精神の集注は平日よく了解して居ることでは急には纏まつては出来ない。

●ノートの書拔きの如きものをよく整頓して置いて骨格をつくりその骨組のみを持つて試験場にあらはれる。而して出された問題に對してはこの骨組みを以て之れに應じ、それから

後は自己の頭腦にうつたへるといふのが勇士の態度である。

(100) 答案の眞善美

答案

●頭腦問題も玄妙の域に到れば眞善美の三理想を充足させなければならぬといふ様な事になつて來るのである。頭腦を見るのは何科でも問題を出して答案を書かして見るのが最もよい。

眞のあらはれ

●その答案には先づ眞實の事が書いてなければならぬ。受験者の知識が確實でなければならぬ。その知識を最も眞ならしむべく如何に研究するか、如何に發表するかは、之を本書に前述べた諸方法に求めなくてはならぬ。

善のあらはれ

美の表現
満點の資
格は眞善
美三點の
充足を要
す

●答案には善があらはれる。學生なら學生の本務をつくしてよく教師の云ふ事をきき、克己勉勵して學を勤めた人でなければ中々よい答案が書けない。答案に知の眞があらはれて居るといふ事は即ちその人格の善の方面があらはれたといつてよからう。中にはよく知つて居ても人物のよくない生徒がある、其者の答案には何處となくその不徳の點があらはれるものである。要するに答案には眞と善とがよくあらはれて出る。●答案の示す所知の眞、意の善があらはれても、その形式内容の美ならざるときはその價值の幾分を減するのである。今の學生は頗るこの點に不注意である。教師も教師で、答案が知的に正解してさへ居れば、善や美の方面には關はずに満點

頭腦明晰法百話

をつける。それがいけない。善點とか美點とかいふのもあつてよい。ことに美點にも大に重きを置くべきである。これらの三方面が具備しなければ眞に立派な頭腦を示す答案といふことは出来ぬ。答案には頭腦に於ける眞善美の三方面が歴然とあらはれる。

頭腦明晰法百話終

明治四十四年五月廿三日印刷
明治四十四年五月廿六日發行

頭腦明晰法百話奥付
定價金三十五錢

著者 堀田 相爾

發行所 株式會社 啓成社

東京市本郷區本郷一丁目
電話下谷五八〇番
振替口座一〇五五番

東京市本郷區本郷二丁目七番地

發行兼印刷者 株式會社 啓成社

右代表者專務取締役

遠藤 國次郎

不許複製

鹿島浩合編 株式啓成社發行

新撰 中學文範 全四冊 定價 一、三十錢 二、卅五錢 三、四十錢 四、卅五錢 郵稅各六

△卷一 目次

- 第一篇 普通文(第一章文體、口語文、普通文、附復文。第二章文の種類、記事、叙事、日記、紀行文)
- 第二篇 書翰文(第一章書翰文話。第二章文例集)
- △卷二 目次
- 第一篇 普通文(第一章文體、口語文、普通文、附復文。第二章文の種類、記事、叙事、日記、紀行文)
- 第二篇 書翰文(第一章書翰文話。第二章用語類集。第三章文例集)
- △卷三 目次
- 第一篇 (一)文章の結構。二、記事文、叙事文。三、日記文、紀行文。四、傳記文。
- 第二篇 (甲)漢文國譯。乙、國文漢譯)
- 第三篇 書翰文
- △卷四 目次
- 第一篇 (甲)文法。乙、記事文。丙、日記文、紀行文。丁、傳記文)
- 第二篇 (甲)解說文。乙、議論文)
- 第三篇 (甲)式辭文。乙、漢文國譯。丙、國文漢譯。丁、書翰文)

福本日南著 (全一冊)

元祿快舉別錄

菊版八百五十頁 定價金二圓廿錢 郵税金十二錢

天覽 本書は千古の快舉として二百年來我社會の上下に深き感化を與へつゝある赤穂義士復讐の顛末を日南氏の偉大なる筆に依りて最も明かに記述したるものなり通篇三百十章之上中下に分ち凶變の發生より蓋棺事定に至る真に近來稀に見るの快著にして古今第一等の義士傳たり

三宅雪嶺序文 福本日南校閱評序 三田村玄龍著 (全一冊)

元祿快舉別錄

菊版三百頁 定價金一圓 郵税金八錢

前に掲げた元祿快舉録の姉妹書にして赤穂義士の仇家たる吉良氏上下の事蹟を詳述したるものなり著者世の往々好む所に僻して動もすれば事件の真相を誤れるを慨し博搜旁引以て彼等の爲めに萬丈の氣憤を吐けり日南子の我著と併せ讀めと謂ひたるは亦宜なりといふべし

(録抄書圖行發社成啓社會式株)

番五五〇二一替振◎目丁一郷本市京東

(株式會社啓成發行圖書抄錄)

海軍少佐 石原忠俊 海軍大尉 本間德次郎 共著 (全一冊)

ネルソンとナポレオン

菊版三百五十頁
上製頗美本函入
定價金一圓廿錢
郵税金八錢

本書は石原本間の兩將校が世界的偉人ネルソンとナポレオンとを武人的眼光より觀察して描寫したるもの坊間の英雄傳と其撰を異にし與會措く能はざる彩筆もて最も關係的に記述し或は戰術を論じ政治を評し其間巧みに兩雄の人物性行を赤裸々二剖折したり其經世的大文字なり何人も讀まざるべからず

元軍艦初瀬乘員 海軍少尉 市川禪海 著 (全一冊)

殘花一輪

菊版四百八十頁
上製頗美本
定價金一圓廿錢
郵税金八錢

是れ狂情七たび死を決して遂げ得ず大悟一番佛門に入りし隻脚少尉の發心録也日露の大役に從軍中自己が親しく遭逢せる出來事に無量の感慨を寄せ生別離苦悲慘交々到り勇敢壯烈懦大をして立たしむるの狀相錯綜して一篇架空の小説より奇なり日露海戰の秘録として他に之より痛快なるはあらじ

(株式會社啓成發行圖書抄錄)

對逸下クトルク原 著 法學博士和田垣謙三校題 有永真人譯 (全一冊)

生きたる英語

四六版三百二十
五頁上製頗美本
定價金八錢
郵税金六錢

行住坐臥の間にも英語を學ばんとする者倫敦市民の日常生活を知らんとする者若くは英國に於ける紳士淑女及び學生等の行動を觀んとする者は其の既に英語に通じると否とを問はず本書を閱讀して得らるる利益頗る大なるものあらん本書は歐洲大陸に於て甚大の歡迎を博したるもの今其翻譯權を得て之を提供す

高橋龍雄編 (全一冊)

健全なる詩歌

菊半載版三百五
十頁上製頗美本
定價金五錢
郵税金六錢

社會主義自然主義其他不健全なる文學は實に世道人心を毒するものとして當局者の銳意これが撲滅に力むるも而も其効なし是れ畢竟これに代るべき趣味あり健全なる文學書なきに由る本書は實に此要求に應じて生れたるものにして現代一流の諸名家の愛吟集を載せ和漢洋の傑作數百篇を掲ぐ

東京市本郷一丁目〇二番五五番

東京市本郷一丁目〇二番五五番

(株) 社會啓成社發行圖書抄錄

池邊義象編

(全一冊)

古事記通釋

古事記は我國最古の典籍にして我建國の由來は元より政治道徳宗教教育文學美術及び法律の思想も亦之に依て知ることを得べし然るに其辭句難澁にして故事出典の深遠なるに依り世人往々一部専門家の研究に委れて之を見るもの稀なり池邊先生夙に慨し本居平田先生の註釋を基礎とし簡明なる解釋を施したり

福本日南監譯

大附録頼山陽自筆南北朝原稿

(全一冊)

國語日本政記

日本政記は神武天皇より後陽成天皇に至る百八世二千年間の編年史にして綱紀の弛張教化の隆替を記述し之に附するに自家の論贊を以てす頼山陽晩年の作にして死に至るも猶補訂の筆を絶たざりきと今原書十六卷の漢文を和譯して之に細註を施し更に卷面に證號年號の讀例を示し卷尾に約百頁の熟語要解を附せり

袖珍版
七百五十頁
類美本天金函入
定價 金八十錢
郵稅 金八錢

東京市本郷一丁目〇二五五番

四

(株) 社會啓成社發行圖書抄錄

補國民新讀本

本書は國民生存の基礎たる農工商に關する知識及び國民として心得べき法制經濟軍事等に關するものを骨子とし之に修身處世の事項と文學的材料とを交へて趣味の涵養に資し且つ現下少年の陥り易き成功熱の弊風を戒め以て堅實なる氣象を養ひ崇高なる人格の人たらしめんことを期せり

啓成社編輯所編

(全八冊)

帝國實業讀本

本書は新時代に適應すべき實業志望者の爲めに生きたる國語を以て生きたる知識と訓育とを授くるを目的としたり故に從來の陳腐なる材料を排斥し最新最良の教材を系統的に按排することに苦心したり世界の趨勢を知り人格の養成に努力の進取の氣象を涵養せんとする者は必らず讀まざる可らず

菊版和製教科適用
定價 各金廿七錢
郵稅 各金六錢

東京市本郷一丁目〇二五五番

五

(株式會社啓成發行圖書抄錄)

前青森縣八月女子實業學校長 阿部洋著 (全一冊)

衣類洗濯色揚法

本書は女子實業補習學校乙種程度女子實業學校及び高等女學校の家事科川若くは簡易染色實驗川として家庭に於て直ちに爲し且つ決して失敗せざる方法のみを掲げ殊に其色揚法の如きは織物一反に對し價約五錢内外の染料にて忽ち原色を復する秘傳あり趣味と實益と相兼ね家事經濟上多大の便益を興ふるものなり

赤堀峰吉渡邊鎌吉共述戸川殘花編次 (全一冊)

和洋料理書

本書は徒らに高遠に馳せず専ら實用を旨として本邦和洋料理界の泰斗赤堀渡邊二先生の親切丁寧に説かれたるものにして上下家庭に於ける無上の重寶なり
目次 日本料理法雜則 ▲日々惣菜六十種 ▲會席並本膳等五十種 ▲菓子製法十七種 ▲西洋料理法雜則 ▲西洋料理並菓子製法等八十六種

菊版和裝八十頁 定價金二十錢 郵税金四錢

菊版二頁 定價金六十五錢 郵税金六錢

六

東京市本郷一丁目 報社一〇五五番

(株式會社啓成發行圖書抄錄)

文學士 堀田相爾著 (全一冊)

頭腦明晰法百話

頭腦は學生の資本にして學業成否の最大要件なり殊に近時の如く入學試験の困難を來だし在校中の成績の如何によりて卒業後の就職に深き關係を有する世にありては學業の進歩を左右する頭腦の如きは實に重要な意味を有す本書は醫家宗教家以外精神科學的見地よりして之が百般の研究を遂げたるものなり

文學博士井上哲次郎序 文學博士遠藤隆吉校閱序文勝水淳行著
文學博士高楠順次郎序 高島平三郎校閱序文勝水淳行著

人生心理學

本書は三博士一教授が科學的修養法と激賞せる破天荒の著述にして實に著者多年の苦心經營の下に成りたるものなり先づ倫理によつて社會の倫理現象を研究し社會學によつて社會現象及び社會對個人の關係を明かにし心理學によつて人の意識活動の法則並に人生の意義を詳説し以て處世上の人格完成を期せり

(全一冊) 菊版三百五十頁 定價金一圓 郵税金八錢

七

東京市本郷一丁目 報社一〇五五番

(株 式 社 會 啓 成 社 發 行 圖 書 抄 錄)

文學博士 芳賀矢一編 (全一冊)

詞藻類纂

菊版千二百頁上製
類美本總六號組
定價二圓五十錢
郵税十錢

本書は明治文壇の大家芳賀博士が和漢上下幾萬の載籍を渉獵し苟くも作文の材となり諷刺に値すべきものは悉く之を收め項を分つこと四百七十無慮一百三十餘萬字の多きに及ぶ其内容には故事熟語作例格言俚諺あり旁引博搜眞に東洋文學の結集たり試に本書を繙かば名文雄篇手に隨て成り咳唾忽ち金玉とならん

文學博士 井上頼圀 高山昇 菟田茂丸 合編 (全一冊)

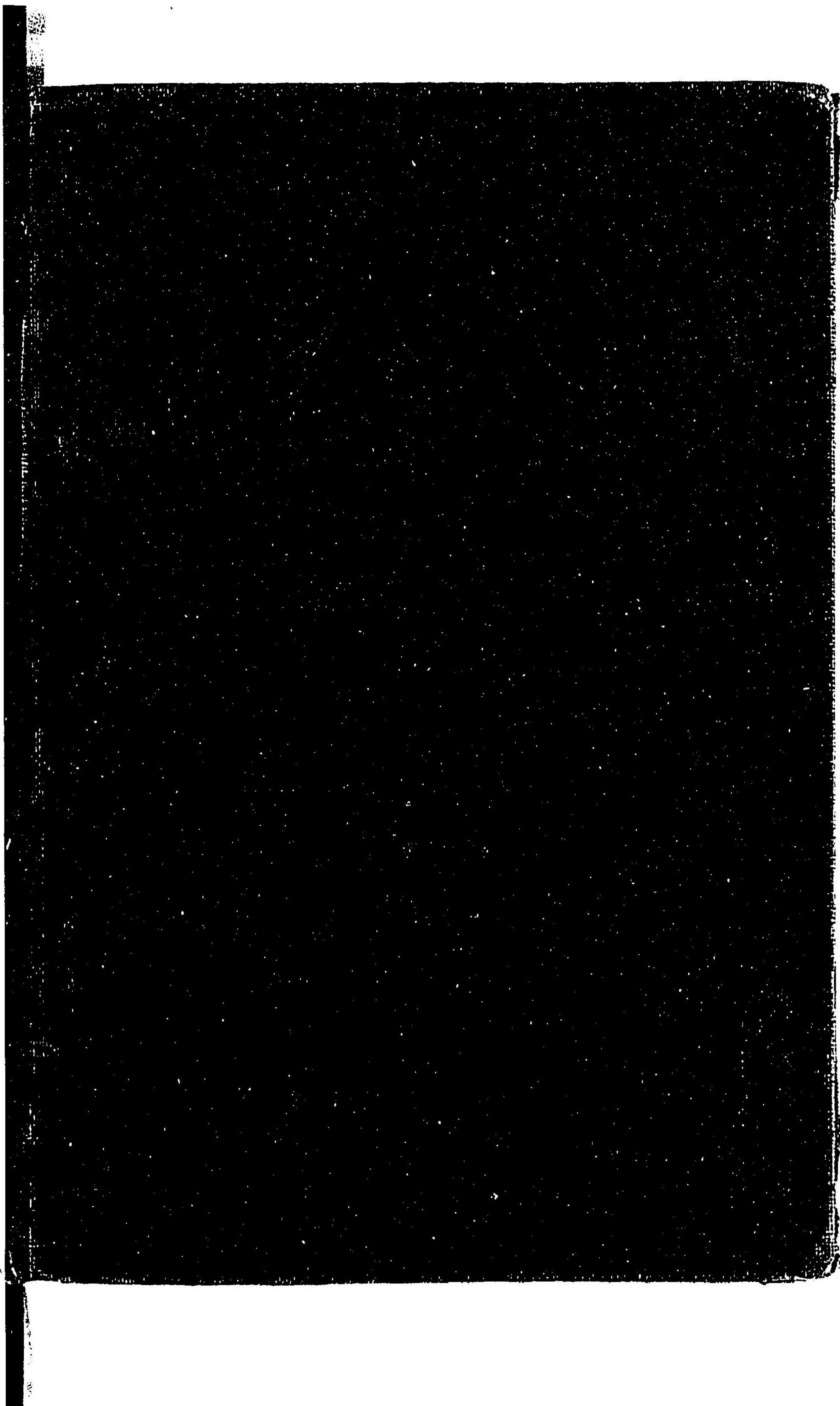
難訓辭典

菊版五百五十頁
定價一圓八十錢
郵税十二錢

本書は國書より難讀難解の名詞を網羅し其訓方と出典を示し且つ簡明に意義を解説したるものにして語數約七千出典書五百に及ぶ之を地名人名姓氏神祇職官有職故實佛事時令稱號等に分類し更に盡引音引の索引を附し以て考索に便にす教育家學者は勿論苟くも文字に親しむ者は必ず座右に備ふべきあり

東京市本郷一丁目◎報一〇五五番

29
372



29
372

060606-000-2

29-372

頭腦明晰法百話

堀田 相尔 / 著

M44

CBM-0462

